

平成18年度教育情報共有化促進モデル事業実績報告 (継続団体枠)

徳島県高等学校教育研究会家庭学会

1 はじめに

徳島県高等学校教育研究会家庭学会では、平成16.17年度に引き続いて平成18年度も文部科学省より教育情報共有化促進モデル事業（継続団体枠）の指定を受け、授業に役立つデジタル・コンテンツ作成や効果的な教員研修のあり方等についての研究に取り組んできた。平成18年度の研究内容・成果および3年間の取り組みで得られた有効な普及活動に関する知見について報告する。

2 実施内容

(1) スキルアップ（パソコン操作）のためのテキスト作成・配布

表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用して、家庭科教材を各自が作りながら操作を学べるテキストを作成した。本テキストは、すぐに授業に取り入れることができるような題材を設定しているため、既に十分なスキルをもつ教員にとっても役立つものである。

- ・タイトル：「楽しく使って楽々マスター 家庭科教員のためのパソコン活用術」
- ・内容：Excelでつくる 私の部屋／Excelでつくる アミノ酸の桶／PowerPointでランチョンマット（型紙）を作成しよう／PowerPointで電子紙芝居を作ろう

なお、製本して配布したものと同一内容のPDFファイルを「Hi!家庭科」で公開しているため、全国からダウンロードして利用することも可能である。

(2) e-learningのためのベーシックデザイン

e-learningサイト「徳島県教育eラーニングポータル」を活用することとし、対象・基本的な構成・作成方針の検討およびモデル教材の作成を実施した。

- ・基本的な構成：開始→単元設定→教材による学習→単元設定→確認テスト→合格点以上で単元終了
- ・作成方針：ベテランの先生のノウハウを伝える。教材用ビデオ分析の結果を生かす→動きのある画面構成。授業プランニングボードと連携させる。

(3) テレビ会議システムの効果的な活用

本事業の研究委員会等、テレビ会議システムを用いて開催し、その中から効果的な運用方法を模索した。

徳島県教育情報ネットワークのテレビ会議では、最大32端末が会議に参加することが可能であるが、参加者全ての画像がパソコン画面に開くことを考えれば、資料提示や黒板機能を活用した場合、そのままではスムーズな会議開催は難しい。参加者が自身の画面を調整できるスキルアップも必要であろう。数回のテスト会議を実施したが、現段階では数名から10数名までの委員会での運営が最もよいと感じた。

意見交換に有効であったのは、チャットである。入力のスピードの差はあるが、発言が記録できることを利用して、議事録の作成ができる点がよいのではないかと考える。

(4) 「Hi!家庭科」のコンテンツ充実

新たに、専門高校の家庭科を意識した、プリント用特殊用紙の活用を提案するコンテンツや、「家庭科教員のためのパソコン活用術」として、県内向けには印刷メディアで配布したもののPDFファイルを掲載した。さらに、教材コンテンツ集・授業に役立つグッズ集の充実に努めた。特に、簡易実物提示装置として高解像度・オートフォーカスのWebカメラを活用するアイデアが好評であった。

また、おすすめコンテンツを選出するアンケートを実施することにより、各コンテンツへの理解を促した。アンケート結果を見ると、乳幼児の保育に関する映像コンテンツに多くの支持が集まった他は特に偏りがなく、全体に万遍なく活用されていることがわかった。

(5) ワークショップ・講演会

県内外を問わず、また内容についても要請に応じて、ワークショップ・講演会等を実施した。実績はつぎのとおりである。

- ・12月 佐賀県・愛媛県…講演会『「Hi!家庭科」授業で使えるデジタルコンテンツの開発と活用のための工夫』
- ・1月 徳島県…テキスト「楽しく使って楽々マスター 家庭科教員のためのパソコン活用術」を用いたワークショップ
- ・2月 岡山県…講習会「効果的なデジタルコンテンツの活用」－家庭クラブのホームページの作成－

3 成果の把握

記述式アンケート調査の結果、多数の教員がコンテンツ活用は授業の理解度向上に役立つと答えており、素晴らしい事業として定着し、家庭科教員がITでつながったとの意見も多くみられた。また、平成18年3月の文部科学省による調査では、コンピュータを使って授業ができる本県家庭科教員の割合は100%となった。

全国からの利用状況については、サーバーの「Hi!家庭科」へのアクセスログの解析を実施した（協力：徳島大学・吉田敦也研究室）。IPアドレスより、自治体名や大学名がわかるものを抽出して分析すると、すべての都道府県からアクセスがあることがわかった。アクセス数の推移については右の表とおりであり、着実に増加してきていることがわかる。

Webサイト「Hi!家庭科」月別アクセス数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	増減
4月		17,070	36,088	↑
5月		34,424	45,428	↑
6月		43,370	55,785	↑
7月	569	32,048	46,300	↑
8月	284	39,567	45,614	↑
9月	88	31,653	47,224	↑
10月	54	35,159	49,154	↑
11月	511	39,190	18,608 (サーバー不調)	(↓)
12月	2,546	27,248	41,976	↑
1月	4,969	39,426	61,653	↑
2月	1,658	38,296		↑
3月	1,488	32,996		↑

4 効果的な普及の方法に関して得られたノウハウ・知見

【Webサイトの内容】

まず、多くの人が使いたいと思う魅力的な教材を提供することが重要である。そして、いつアクセスしても必要な教材コンテンツが見つかるよう、高校家庭科の全分野をカバーするコンテンツを揃えておくことが、リピーターを増やすために必要であると考えられる。

また、ネットワーク環境が整っていない教室も多いため、USBフラッシュメモリやポータブルハードディスクへファイルを保存して活用することをおすすめし、簡単に一括ダウンロードできるファイルをWebサイトに掲載した。CDで配布してもよいが、その場合、Webサイトでの情報更新が反映されないのが欠点である。

【研修】

デジタル・コンテンツの活用促進を図るためには、単にことばで説明するだけよりは、実際に自分でパソコンを操作したり、主体的に話し合いに参加したりしながら、研修をすすめるのが効果的である。そこで、ワークショップ形式の研修を中心にし、開催場所も、できるだけたくさんの教員が参加できるよう、リクエストに応じられるようにした。回を重ねることにより、ワークショップの参加者が、次のワークショップのメンターへというように、実践する仲間を無理なく増やしていくことにつながった。

【体制】

3年間にわたる全体的な取り組みを振り返ると、“有志”ではなく、県内の同一校種・同一教科の教員全員の所属する既存団体で取り組んだことが、団体内でのデジタルコンテンツ活用度の向上によい影響を与えたと感じる。公的な団体なので、文部科学省・教育委員会からも公式に「Hi!家庭科」の広報をしていただき、県外への普及活動も実施することができた。また、コンテンツ開発・サーバー管理には大学やNPOの力もお借りして経済的な運営ができた。

【Coordinate】

+αの情報（周辺機器情報など）も含めて、家庭科教員が、家庭科教員のための情報をトータルにコーディネートして提供できたことが、「Hi!家庭科」が多くの支持を得ることができた要因のひとつであると考えられる。（→ニーズの的確な把握）

また、サイトの名称（Hi!家庭科）も大切である（検索サイトから、キーワード「hi家庭科」で検索できる）ことに、普及活動に取り組む中で強く感じた。